

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491400053		
法人名	株式会社キタイセ		
事業所名	グループホームあおい		
所在地	三重県いなべ市大安町大井田2836		
自己評価作成日	平成25年5月17日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JievosvoCd=2491400053-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JievosvoCd=2491400053-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 6 月 27 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

室内、玄関などに四季の花をかかさないで飾り、季節を感じていただいている。また、家族さんに毎月発行する『あおい新聞』には、季節の催しや、普段の生活の写真を掲載し、担当者からのおたよりを添えて、あおいでの利用者さんの様子を伝えるようにしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の民家から少し離れたところに立地しているため、地域住民との日常的な交流が難しいが、各種イベントに多くの利用者家族の参加を得て、地域との付き合いも徐々に出来つつある。写真いっぱい「あおい新聞」も毎月かかさず発行し、利用者家族はもちろん行政にも届けており、コミュニケーションのツールの一つになっている。職員同士はもちろん職員と利用者間も仲がよく「自分のおばあちゃん」とか「ここにくるのが楽しみ」という職員もいれば、職員が帰るとき「もう帰るの」と声をかけてくれる利用者もいる。職員・利用者共に非常に笑顔の多い事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に全員で唱和している。サブテーマは今週の目標として週替わりで読んで、実践につなげるようにしている。	2つの理念を機械的に唱和するのではなく、より具体的な5つのサブテーマを各週の目標とし、実践につなげるよう、職員全員で話し合い意思統一している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と離れているためなかなか交流しづらいが、お元気な利用者とともに地域の掃除に参加している。	昨年8月のデイサービスと合同の夏祭りは、たくさんの家族の参加もあり盛大な催し物になった。今年もグループホームだけではあるがお祭りを計画しており、家族や地域の方々の参加を期待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしてゆこうと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の日に反省会をかねて開催したが、地域からの参加者がなかった。	昨年1回だけの開催に留まっている。	堅苦しい「会議」という形にとらわれず、気楽な「話し合いの場」になることを期待する。また年間行事計画の中に運営推進会議を位置づけることも検討してほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新聞を届けたり、空き部屋情報を送ったり、協力関係を築くようにしている。	市の「高齢者見守りネットワーク」にも加入しているし、日常の情報交換に代表だけでなく管理者も積極的に市担当者との連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の介護の中で話し合い、資料などを読み、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束と分からずにやっтерることもあり、「これは拘束と違うか」と日々の仕事の中で話し合っている。社外研修にも出席している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員が事業所内で話し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、成年後見制度の活用をされている方がいないため、学んでいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前より訪問して説明を行ったり、納得、理解をしていただいているから契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、日ごろから、来所されたときに気楽に何でもお話をさせていただけるような状況を作っている。	面会に来られた時、何でも話していただけるような雰囲気作りをしているし、イベント時の家族の参加もよく、良いコミュニケーション作りが出来る。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱を設置しているほか、職員の意見や提案は管理者が聞き、代表者に伝えている。	特に意見吸い上げの会議等は設けていないが、毎日の引継ぎのミーティングでも、職員からたくさんの意見が出る雰囲気づくりが出来ており、職員による改善意見も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善手当をつけたり、食事会を設けたりして働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内で出来る研修DVDを購入し活用したり、研修会に参加できる機会を確保するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設見学や、兄弟施設との交流を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族さんより情報を聴取したり、ご本人と個別にお話しをしたり不安を取り除けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんのお話をしっかり聞き、信頼してまかせていただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要としているかはお話をしっかり聞き、その中から見極めるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として色々教えていただいたり、できる事はしていただき、一緒に生活してゆく者同士の関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ来所して頂けるように、家族さんにできる支援はお願いし、ご本人と家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来て下さる方には、またいつでも施設に遊びに来れるよう声をかけ、オープンにしている。	利用者の友人の訪問や1階のデイサービスに来ている方との交流もある。家族の協力でドライブや旅行等の外出もあるし、法事で帰宅する場合もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまく行くように見守り、また必要に応じては参加したり、声をかけたりして、支え合って生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてはしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理に時間などで縛らずに、出来る限り自由に生活していただけるように努めている。	普段の会話の中から、思いや意向の把握をしておき、センター方式の「私の姿と気持ちシート」に把握の都度記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後も家族さんに聞いたり、ご本人との話の中で把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	どの程度の事が出来るのか、職員と共に家事など行いながら見極め、心身状態など観察に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さんの担当者を決めており、計画作成者はミーティングや担当者会議で職員の意見を聞いて、色々なアイデアなどを活かすようにしている。	1人の利用者を2人の職員が担当するという担当者制をとっており、利用者・家族の意見の入った担当職員の提案をいれ、計画作成者がまとめている。利用者・家族の意見・要望は「言葉をそのまま書く」ことで、理解しやすくしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録も特別な状態の記録紙を用意しており、利用者さんの状況に合わせて使用。気づきや工夫などはミーティングや申し送り時に話し合い、情報を共有し、介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしい生活、自由を尊重してできる限り利用者さんのニーズに答えられるような支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者さん全員とはいかないが、できる方には支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族さんの希望通りの医者への受診を行っている。	本人・家族の希望を大切に、利用者の5人が従来からのかかりつけ医としている。協力医は少し遠方で往診もないので、近所の医院にお願いすることが多くなってきている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師はいないが、階下で行っているデイサービスの看護師に相談できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを持参し、退院時も情報をいただくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師が常在していないので看取りは出来ないこと、重度化した場合は事業所で看取ることが出来ないこと等契約の初めに説明している。	看取りは出来ない旨、契約時に話しており、家族も了解し、特養や老健等に申し込んでいる利用者もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生後には検討会議を行って、次に備えての話し合いをする。 応急手当などの訓練はできていない為、これから行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は話も含め毎月行って、利用者が避難できる方法を考えている。 防災頭巾も利用者と職員で制作した。	各種条件を変えながら、毎月1回訓練を継続している。防災頭巾もみんなで作り、意識は高まってきている。利用者のみならず職員も「万一のとき」はパニックにならないよう今後も訓練を継続する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として利用者を敬う気持ちを忘れずに、プライバシーにも配慮している。	上から目線の声かけや幼児言葉をやめるよう徹底しているし、トイレのドアは閉めるようプライバシーにも気配りしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りご本人の思いや希望を聞き、お話を傾聴するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務はできなくても、利用者本位、利用者優先で支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度の訪問美容師さんにご自分の好きなヘアスタイルを注文しカットしてもらっている。また、時には化粧やマニキュアなども、してさしあげることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の方は食事作りを楽しんでくださる。片づけもご自分の仕事ととらえて頑張つてされる方もある。また、誕生日などに得意な料理を聞いて一緒に作ったりして楽しんでいる。	出来る人は食事の準備から片付け、洗い、すすぎとエプロンをつけて自主的に手伝っているし、職員も混じっての、にぎやかな楽しい食事時間である。誕生日などの特別行事の日には、焼きそばやたこ焼き等みんなの手づくりで楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取量をチェックし記録。個人の健康状態の目安にしている。また、その日の状態や、体重など考慮しながら一人ひとりに合った食事を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	皆さんに歯磨きうがいの声掛けをし、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のトイレ時間を把握し、声掛け誘導をおこなっている。(が、失敗も多い。)	自分でトイレに行かれる方が半数以上おられるが、排泄パターンを把握し、一人ひとりに声掛け誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルトなどの利用で便秘にならないよう工夫している。便秘薬はほとんど使用していない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく暖かい午前中に、一日おきで入っただけにしているが、毎日入りたい人、入りたくない人は自由にしている。	その日の気分で入浴拒否の方もおられるが、家族の協力もあり、ほぼ一日おきに入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせて夜間、眠れない時は焦らず起きていてもらい、安心して眠れるよう支援している。利用者によっては昼寝をしていただく方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の薬を管理をして、職員全体が誤薬の無いように注意を払っている。どんな薬を飲んでいるかが解るように効能書も薬箱横にセットしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った仕事を見つけたり好きな手芸や歌など、担当職員を決めて支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、外出は少な目だが利用者によっては家族さんや地域の方にも協力していただいている。もう少し個別での外出支援をしたいと思っている。	天気の良い日の散歩は敷地内や道路の歩道部分を行けるところまで散歩しているし、梅、桜、コスモス、アジサイ等季節の花見には欠かさず遠出している。また買い物でイオンに行ったり、うどん屋に外食に出たりもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行った時、お菓子の購入などをさせていただくようにしている。個人的に金銭所持をされている方もあるが、施設では支援を行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できる方、したい方には電話をかけたり、手紙を書くことをすすめている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節の花を欠かさず活けて、その時期の貼り絵などを飾って季節感を出すようにしている。	アジサイの花がテーブルの上や食堂兼居間の棚やあちこちに活けてあるし、壁には利用者の手作りによるちぎり絵や折り紙を利用した大きなアジサイが飾っており、季節感いっぱいである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、リビングの椅子など自由に座っていただいている。畳コーナーも開放したが、皆さん正座が出来ない為、腰かけて洗濯たみをしたり、人によってはごろ寝されたりも。それぞれが落ち着ける居心地の良い場所にて過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室には自由に家具など持ち込んで居心地の良い空間作りをしていただくよう家族さんにお話ししている。	壁に孫やひ孫の写真を飾ったり、手作りの品や位牌の置いてある部屋もあるが、一日のほとんどを居間兼食堂で過ごされ、居室は寝るための部屋になっている為か、比較的にすっきりと整頓された部屋が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的な雰囲気の中で、できるだけ自立した生活をと考えているが、まだ途上。		